Fukushima little day

福島市に移り住んだ
3 人の
それぞれの暮らし

福島県 福島市

Fukushima little day

福島市に移り住んだ３人のそれぞれの暮らし

郊　外とくらし

大友農園　代表
大友　伸夫さん

温泉地とくらし

YUMORI ONSEN HOSTEL マネージャー
渡邊　萌 さん

街なかとくらし

ふくしまおもてなしコンシェルジュ
但野 智子 さん

結婚を機に福島市へ 吾妻の山々に抱かれた農園で より「いい物」を求めて汗を流す

郊外とくらし

大友農園　代表

大友　伸夫さん

移住後に未経験の農業へ失敗を重ねながら挑戦の日々

私の実家は農家でしたが、農作業は手伝っていなかったね。顔を出すのは休憩の時だけ（笑）。

果樹や米を始めたのは、結婚を機に嫁の実家のここ（福島市上名倉地区）に来てから。夫婦とも勤め人からの転身で、農業は30代で素人からの出発だったんだ。

でも農作業を知らない分、当たり前と思われている事に囚われずに色々と挑戦してきたよ。稲作は田植えの時期に果樹の手入れなどの作業が重なって、果樹作業はあまりやらないんだけどはじめ水稲はは6反ほどやっていて、震災後は近所の田んぼも預かっているよ。サクランボの栽培も、暮らしを良くしようと自分の代から新しく始めたんだ。

お客さんが喜ぶいい物を苦難の中でも求め続ける

サクランボの収量も増えた矢先、地震が起きてしまったんだ。もちろん出荷量は激減。果樹園も表土を剥ぎ、他県の安全なたい肥を入れている。果樹が弱くなったりコストがかかるけど、安全安心には代えられないからね。最低からの再スタートになったけど、この先は上を向いてやるしかない。素人から経験を積んで、ここまでやってきたんだから。いつでも初心、昔も今も一緒だよ。

大変な時期もあったけど、今は海外の子どもがモモの収穫体験に福島まで来るようになった。そんな姿を見ていると、喜んでくれるいい物を作ろうとぶれずに頑張ってきてよかったなぁと思えるよ。

畑からは国立公園にもなっている吾妻連峰が見える

サンフジの収穫時期

収穫されたりんごは一つ一つ大事に仕分けられる

飼い猫のゴマも一緒に畑にでる

家からりんご園まで徒歩３分

農業が変化する今だからこそ地域が育んだ心遣いを大切に

昨年から関東で働いていた娘も戻り、果樹試験場で学びながら頑張っているよ。私達も年になってきたし、農園は縮小していこうと話していたんだけどね（笑）。

娘には今までに拘らずに、作りたい物を作れって言ってんだ。

娘のように農業に興味を持つ若い人や移住者が、福島でも増えているようだね。私達が若い時のような農業を知らない人でも、作業を手伝ってもらいながら、今までの経験や技術を伝えることはできると思うんだ。逆に娘からは、自分の知らない技術の話を聞いてるよ（笑）。

そんな昔から農村に流れる互いに助け合う「結」の心が、これからの福島の家族や地域にも息づいていて欲しいね。

大友　伸夫さん
大友農園　代表
1995 年福島県いわき市から福島市に I ターン
プロフィール
1962 年いわき市生まれ。会社に勤めていたが結婚を機に奥様の実家がある福島市に移り就農。素人からの出発であったが挑戦を重ねながら農園を切り盛りしている。現在は娘の遥花さんが就農し、家族で作業している姿が印象的だった。

さまざまな国の人が それぞれの土湯を楽しむ 若い感性が紡ぐ温泉ホテル

温泉地とくらし

YUMORI ONSEN HOSTEL マネージャー

渡邉　萌 さん

憧れだったＬＡの風を追い温泉街から港町ヨコハマへ

私は高校時代から友人の影響で、ファッションや音楽などアメリカ西海岸のブラックカルチャーに憧れを持つようになりました。趣ある温泉街には、あまり居ないようなファッションだったかもしれません（笑）。

大学を出てから福島で働いていたのですが、心の中ではカルチャーの発信地ＬＡへの想いが常にありましたね。

そんな時期に私が好きなファッションを取り扱っていて、長年憧れていた横浜にあるショップで働けることになりました。頑張ればＬＡまで買い付けに行けるのも魅力でしたね（笑）。

当時は外の世界への興味が勝っていて、生まれ育った土湯には特別な意識はありませんでした。

故郷を離れて気付いた心の流れる「大切な物」

土湯では父と母と弟で家業の温泉旅館を切り盛りしていましたが、経営者の高齢化や客足の落ち込みが激しく、打開策を地域ぐるみで話し合っていました。その結果、震災後に廃業した旅館を欧米で一般的な素泊まり専用のホテルとして、全面改装して開業することになったんです。

館内で全て完結する従来の温泉宿もいいですが、旅行者に土湯の魅力をホテルで案内し、個々で楽しんでいただく新たな試みです。私も故郷のチャレンジに力を貸したいと思い、福島へ戻って頑張ることにしました。

正直言うと横浜の生活は、福島への想いがいつも心に横たわっていて、さみしい気持ちも強かったんです。一度離れると、足元にあった大切な物に気付くんですね。

土湯温泉街

YUMORI ONSEN HOSTEL のエントランス

宿のラウンジは交流の場として開放されている

世界地図には旅行者の居住地がピンされている

スタッフと打ち合わせ中

国籍問わず癒される新たな温泉宿を求めて

現在は外国人を含むスタッフと、世界各国からのお客様を土湯に迎えています。私が異文化に触れる出発点になったブラックカルチャーを育んだＬＡは、家族や仲間を大切にする文化が根付いています。人の温かさは福島にも通ずる所があるなと、振り返ると思いますね（笑）。

旅の魅力は、旅行者、地域、スタッフの間に起こる、そんな温かな触れ合いだと思いませんか。さまざまな国の方がラウンジで話しているのを見ると、その感覚は万国共通だと感じます。宿で仲良くなって一緒に会津へ旅立たれたお客様もいるんですよ。土湯で身も心も癒され、もっと福島を深く知りたくなってくれたら嬉しいです。

渡邉　萌さん
YUMORI ONSEN HOSTELマネージャー

プロフィール

1986 年土湯温泉町生まれ。2018 年横浜から土湯温泉町に U ターン。横浜でアパレルの仕事に従事するも、実家の旅館がホステルをオープンするのに合わせて U ターン。土湯温泉初の素泊まり専用ホステル YUMORI を切り盛りしながら、地元を活性化すべく奮闘中。

心を開いて繋がった人の輪が自分らしい生活を形作っていく「新たな福島人」にその喜びを

街なかとくらし

ふくしまおもてなしコンシェルジュ

但野 智子 さん

夫のUターン願望に共感し福島での新生活がスタート

福島市に移住することになったのは、夫が故郷へ戻って暮らしたいと言い出したことがきっかけでした。ちょうど子どもが小学校に上がるタイミングだったことと、子どもには自然豊かな環境でのびのび育ってほしいなと思っていたこともあり、移住を決断しました。

私自身もこれを機に、得意の英語とドイツ語のスキルを活かして、やりがいを感じながらもっと自分らしく働きたいという思いもありました。

子どもたちはこちらでの生活になじんで、もうすっかり福島弁のネイティブです（笑）。

福島での出会いが、積み重ねが自分らしい仕事につながる

福島に来たからには充実した生活を送りたいと、興味が持てそうな情報には常にアンテナを張っています。市政だよりやタウン誌にはおもしろそうなイベントがたくさん掲載されているので、毎号目を通すようにしています。

実際に足を運んだ場所や催しで、様々な方との縁も広がりました。そこで、語学が得意ならと紹介されたのが、福島市のおもてなしコンシェルジュの仕事だったんです。

スイス留学中は、バックパッカーとしてヨーロッパをひとり旅していたのですが、訪れる先々の観光案内所で随分助けられました。今度は自分が、その時に受けた恩を返す番だと思っています。

お客さまからの「ありがとう」の一言が、何よりうれしいです。

近所の「荒川桜づつみ公園」は週末子供連れで賑わっている

バッグにはホストタウンのスイスのバッチが

この日もかばんには図書館で借りた絵本が入っていた

福島駅西口の観光案内所

観光案内所のユニフォームで

福島で感じた温かな心、見つけたよさ

今度は届ける側で

町の人と接していて印象深いのは、福島の人の温かさ。人柄と同じく、車の運転もやさしいですね（笑）。

福島市のよいところと言えば、図書の予約システムが挙げられます。インターネットで本を予約すると、指定した場所、例えば最寄りの学習センターなどに届けてもらえます。毎日子どもに絵本を読み聞かせしているので、便利に本を借りられて本当にありがたいです。

今後は、移住してこられる方が人とつながりを拡げていくお手伝いができたらうれしいですし、福島で暮らしてみて見つけたよさを、国内外に積極的に発信していきたいと思っています。

但野　智子さん

英会話講師、福島市観光案内所 ふくしまおもてなしコンシェルジュ

プロフィール

愛知県生まれ。二児の母。2018 年夫が U ターンを決断したことに伴い家族で横浜市より夫の故郷・福島市へ移住。現在は子育ての傍ら外国人観光客案内コンシェルジュとして勤務。大学時代スイスに留学。これまでに世界 30 ヶ国以上を旅した。興味のあるコミュニティに積極的に参加しつながりを拡げている。

街の中心にある信夫山から見てみたよ！

いろんな住み方 福島市

市街地の中心にある信夫山 烏ヶ崎展望デッキ

作った人も Uターン

1

U-turn

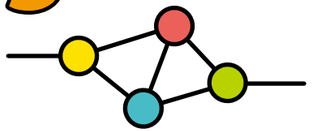
大好きな故郷の復興を支えたい、復興する姿をそばで見つめたいという想いから、震災後福島に戻ってきました。

2

Discover

自分たちの足を使って福島のいいところを掘り出します。その地域や文化に根ざしたものを見つけるには、直接足を運んでみるのがいちばんです。

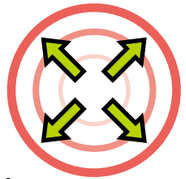
3



Connect

足を運んだ先で出会った人、見つけた場所をつなぎます。いろんなものをつないでいくと福島が新しい表情を見せてくれます。

4



Expand

そうしてできた福島の輪をデザインのちからでさらに広げていきます。

プランニングとデザイン

FRIDAY SCREEN

フライデースクリーン

福島市を拠点にプランニングとデザインをするデザイン事務所。震災後 U ターンした二人が 2015 年に設立。地域に根ざしたイベントの企画や運営をはじめ、プロダクトやグラフィックといったデザイン、ワークショップなどを行っている。雉や野鳥の声がよく聞こえる福島市の旧集落に事務所を構え、日々福島を楽しみながら仕事中。

&
インタビュー：江藤 純（東京出身 I ターン）
インフォグラフィック（当ページ）：小林 沙羅（猪苗代出身 J ターン）

U　I　J

ターン　ターン　ターン

若い世代には仕事や住まい探しのお手伝い
子育て世代には各種支援制度等のサポート提案
就農を希望する方には研修制度や新規就農支援制度のご案内など
移住希望者の目的やライフスタイルに沿った情報提供や
支援制度の紹介・申請サポートなど
移住相談をワンストップで行います

福島市　定住交流課
福島市五老内町３番１号
TEL０２４-５７２-５４５１

＼市の移住支援／